



コメ作り農家の持続可能な経営のため支援を



上野 公悦(日本共産党議員団)

Q エネルギーや諸物価の高騰による生産コストの上昇に加え、JA全農が示した令和8年度米の仮渡金が4割下落し、新米の店頭価格も安いことから、今後の農業経営に大きな不安が広がっているが、影響をどう認識しているか。

A 肥料や燃料、農業機械の維持管理に要する経費など、生産コストの上昇に加えて、コメの販売代金が確定する前の当面の収入となる令和8年度の仮渡金が厳しい状況になったことは、次年度の経営計画を立てる上で影響を及ぼす可能性があると認識している。今後の追加払いを含め、コメを取り巻く状況の中で実態が見えてくるものと捉えている。現時点では収入や経営への影響を正確に把握することは困難である。

Q コメ農家の安定経営を支えるため、政府備蓄米の大幅な買い戻しを国に要望してはどうか。

A 買戻しは全国知事会などが要請しており、今後の国の対応や議論の推移を見守りたい。

Q 市独自で農家の支援を行う考えはないか。

A 市独自の支援は考えておらず、既存の融資制度の周知に努める。現時点では、今後の影響を注視するとともに、必要な相談対応を行う。

Q 地元産米の販路・需要の拡大策はどうか。

A 地産地消の推進やふるさと納税返礼品としての活用、都市生協を通じた販売等に取り組んでおり、今後も需要の下支えに努めていく。



謙信公生誕500年に 向け上越の強みを磨く ストラットン恵美子(久比岐野)



Q 地域資源を生かした産業の付加価値向上や、地域外・海外需要を獲得するための国の地域未来戦略として県が進める、地場産業成長プランに「上杉謙信公を核としたインバウンド誘客」を当市が提案した背景と狙いは何か。

A 謙信公生誕500年や妙高リゾート開発を好機として、「Meet Joetsu in Joetsu」の取組を推進し、民間事業者の機運醸成と地域観光産業の成長を後押しするためである。



Meet Japan
in Joetsu
インスタグラム

Q 市内各地域の資源を生かした観光振興や、広域観光へと展開する考えはないか。

A 官民が連携して旅行事業者や商品を増やし、市内全域の観光資源の活用と広域連携を進める。

空き家の適正管理と対策強化は待ったなし！

Q 危険な空き家等への対応はどうか。

A 市内には特定空き家等が261件、管理不全空き家等が666件ある。管理は所有者の責任で適切に行われることが基本だが、市も危険性や緊急性、周辺への影響を総合的に判断し、法令等に基づく必要な措置を講じ、適切に対応する。

Q 除却支援の制度を拡充してはどうか。

A 現行制度による除却実績は51件あるが、制度の実効性や利用状況を検証する中で、効果的な支援制度を検討していく。



愛着形成の重要性 市の認識はどうか？



渡邊 希(参政党)

Q 愛着形成は、乳幼児と養育者との間に育まれる安心と信頼の絆であり、その後の人生を支える基盤となるものである。安定した愛着形成のためには乳幼児期の親子の関わりが重要と考えるが、市は愛着形成の重要性をどう認識しているか。また、「0・1・2歳の間は保育施設を利用せず、家庭で子育てをする」という選択を、子育て支援の中でどう位置付けているか。

A 愛着形成は、乳幼児期の子供の経験が、その後の人間関係や心の安定の土台となるものとされ、子供の健やかな育ちにとって、大変重要なものと認識している。市では、乳幼児健診等で、子供からのサインに保護者が丁寧に応えることの大切さを伝えている。家庭で育児をするか保育園を利用するかは、各家庭の実情や考え方によるが、いずれの場合も、愛着を育みながら健やかに成長できるよう、支援に努めている。

Q 親が保育園で子供と1日過ごす保育士体験は、親子の育ち合いや園との信頼関係を深める活動である。公立保育園で導入してはどうか。

A 保育園での子供の様子や保育士の関わり方を、保護者がより深く知る機会となり、保護者と保育士の相互理解を深めると考える。安全や保育活動への影響等を考慮する必要があることから、他市の取組状況や効果、課題等について研究していく。